

平成30年度社会福祉法人ひらか福社会事業報告

1. 社会福祉法人ひらか福社会

平成30年5月に企業内保育園 kagaribi kidz の開設を皮切りに、平成30年9月にAKITA トレーニングセンター、平成30年11月に放課後等デイサービスキッズスポーツを順次開設することができた。法人職員数も総勢約100名を数える人数となり、「介護」、「保育」、「障害」の福祉3分野で地域福祉を担う体制が完成した。

既存施設の運営においては、あやめ苑とかがり火を合わせて前年度比104%の収入増となったが、収支差額としては人件費の増加もありこちらは前年度比88%となった。

今後は新規事業を軌道に乗せると共に、既存事業の体制整備をしっかりと取り組んでいく。

2. 特別養護老人ホームあやめ苑・ショートステイあやめ苑

「地域に出て行こう！」を統一目標に、あやめ苑の魅力をつくり知ってもらうこと、地域に出て行きあやめ苑の情報発信すること、地域の仲間になることを重点目標に取り組んできた。

あやめ苑の魅力を作るために、まずは職員が自ら学びやりたいことができる仕組みを作り、事業所の活性化を図るべくキャリアに合わせた研修への参加と職員の意見を取り入れた施設運営を試みたが、一部職員の専門分野への研修参加は実施できたが、職員の意欲向上ややりたいことができる仕組みづくりという本来の目的達成には至らなかった。念願だった95%以上の年間平均稼働率は達成できたが、現場運営に追われ、年間目標の「地域とのつながり」を深める活動に本腰を入れることができなかった。また、職員の声に耳を傾けられず職員の流出防止をできず、あやめ苑の魅力づくりは内部の活性化につなげられなかった。

情報発信については、SNS を用いた情報発信と地域行事への参加を通じて直にPRする計画だったが、どちらも中途半端な活動となり、地域が抱えている問題の把握と解決に向けた取り組みには至らなかった。

総括として、私たちは何をやっているのか、何ができるのかの情報が地域に浸透できていないことを再認識し、情報格差を埋める地道な活動が必要だと感じた。私たちの課題をもっとシンプルに洗い出し、行動力を持ってチームとして新年度は課題解決に取り組んでいく。

稼働率目標と実績

- ・特別養護老人ホームあやめ苑（29床） 目標）95.00％／実績）95.93％
退所や入院による空床を繰り返し、単月で1ヶ月間満床の月がなかったが、併設ショートステイの強みを活かし、空床利用で一日一日をつぶしていった。依然として短期間での入所が課題だが、こまめに候補者をメンテナンスして着実に期間短縮に努めている。
- ・ショートステイあやめ苑（14床） 目標）95.00％／実績）94.34％
積極的に利用受け入れした結果、特養との連携もあり空床の穴埋めができた。年間を通じて波はあったが、年度終盤は特養の空床利用も含め稼働率の積み上げができた。

3. ショートステイかがり火

今年度はかがり火が開所して以来目標としていた、年間稼働率95%を達成することが出来た。これは、地域のいろいろな研修や会議に職員が参加した結果、利用者の満足につながったのだと思う。また利用者が多くなることによって、他職種との連携の重要性と、利用者様への意識した丁寧な対応を心掛ける様子が見られた。しかし一方では、昨年度より課題となっていた利用者の忘れ物や同じような事故報告であるが、今年度マニュアルの見直しをおこなったもののいまだに繰り返されており、各マニュアルの再度の見直しと職員への浸透が必要であると各委員会より年度反省があり、引き続き来年度の課題となった。

また、ショートステイと一体運営となる企業主導型保育園（kagaribi kidz）が開所し、色々な行事を合同で行うことが出来て利用者様の笑顔も増えていた。

稼働率目標と実績（定員30名）
 目標 年間稼働率 95% （1日平均 28.5人）
 実績 年間稼働率 96.24%（1日平均 28.87人）

4. ケアプランセンターかがり火

今年度はケアマネを1人増やして3人体制で居宅介護支援事業を行った。羽後町に限らない事かもしれないがケアマネが不足しており、以前よりケアマネを増やしてほしいとの要望も多かったため、期待に応える事が出来たと思っている。また、昨年度よりさらに地域に密着した居宅介護支援事業所となる為に、医療重度の利用者様や単独独居の利用者様の引き受けをさらに積極的に行い、家での看取りを行ったケースも増えてきている。ケアマネとしてのスキルも向上しており、安心して任せてもらえる居宅介護事業所となってきたと自負しているが、さらに全員で同じように対応できるようにスキル向上を目指し、昨年度同様に何時でも立ち寄り相談しやすい事業を目指すと共に、関係機関や地域との連携・連絡体制を強化して行きたい。

5. 企業内保育園 kagaribi kidz (かがり火キッズ)

5月より開所したが羽後町では初めての認可外保育園となり、今年度は職員の子供がほぼ9割を占める運営となった。また、年齢層も0歳児～2歳児がほぼ全部を占めており、元気な声が駐車場や施設内で聞くことが出来た。また、ショートとの合同行事を行い、ショートの利用者様との交流も行った。また、地域の商店街へも出かけ地域の人との交流もすることが出来た。

認可外ではあるが、役場からの0歳児の紹介も秋ごろからぽつぽつとあり、kagaribi kidz が地域でも認められ、来年度へつなぐことが出来たと感じた。

6. AKITA トレーニングセンター

9月から一般トレーニングジムを開始、11月からリハビリデイサービスを開始した。先進的なデイサービスを目指したせいか、一般の利用者が多く、デイサービス対象者により多く利用していただくようPR活動に力を入れている。各居宅介護支援事務所を訪問した営業活動や、ケアマネージャー対象のリハビリセミナーの開催を毎月行ったり、施設チラシのポスティング活動などみんなで力を合わせて頑張っている。

7. 放課後等デイサービスキッズスポーツ

11月から開始し、年明けより順調に利用者を増やしてきた。市内で3件目の放課後等デイサービスということもあり、注目度が高くなっている。「スポーツ」を療育のテーマにした施設ではあるが、重度の発達障害の児童も多く、スポーツのプログラムを実施することが難しいことが多い。平日の営業に加え、土曜日の営業も開始し、学校休業日ならではの「外出支援」を中心に人気プログラムとなっている。今後はより児童の障害に合わせたプログラムの開発や2教室目の展開を検討していきたい。